

絵本から人形劇へ：Paradis におけるアダプテーションの価値

要約

デンマーク語 糟谷有花

本論文は、キム・フォップス・オーケソンの絵本 *Paradis* からクラウド・メーヌーによる人形劇 *Paradis* へのアダプテーションの価値を、原作絵本の作者の人生観、及び人形劇の演者の作風を絡めながら考察したものである。

第 1 章においてはこの研究の動機や目的、また研究方法についての説明を行い、各章の内容の概要を提示している。第 2 章では原作者キム・フォップス・オーケソンについての紹介と、絵本 *Paradis* の作品情報やあらすじの紹介をした。第 3 章では本論文におけるアダプテーションの定義を説明してから、アダプテーションによって生じた構造上の変化とその意義を考察した。また、原作の絵本とアダプテーション後の人形劇、それぞれの作家の特徴を比較するために、原作者オーケソンが過去の自分自身を描いた個人史 *Drengen, der ikke vidste hvad han ville* から彼の人生観を見出し、それが絵本 *Paradis* にどのような影響を与えているのか考察した。また、アダプテーションの実行者であるメーヌーが作品を上演する中で大切にしていることを語っている資料から、彼がどのような姿勢でアダプテーションに臨んだのかを考察した。すると、オーケソンは「人生は謳歌するもの」という人生観の下、「人生を何となく生きるのではなく、自分の歩みたい人生を歩もう」というメッセージを作品に込めていた。一方、メーヌーは目の前の観客との近い距離感を一番大切にする演者であることが分かった。第 4 章では絵本と人形劇に共通して見られる「死」、「孤独」、「愛」という 3 つのテーマを取り上げ、それらが原作とアダプテーション作品においてどのように変化しているのか、またその変化、あるいは差異は何なのかを詳しく考察した。すると絵本では「死」と「孤独」、人形劇では「愛」が強調されていることがわかった。オーケソンは「死」や「孤独」を重点的に描くことで自分自身の人生を見つめ直すきっかけを与え、メーヌーは「愛」に焦点を当てて物語をより明るい印象にすることで、観客である子供たちをより人形劇に惹きつけることに成功した。最終第 5 章では以上の考察から、本作品におけるアダプテーションの価値は、受け手に合わせたより伝わりやすく、より楽しんでもらえる方法で作品を届けられたことであるということ結論として導き出した。以上より、アダプテーションは創造的な過程だということが分かった。